シリーズ
この建具が凄い
春季特集

外付け窓でデザイン優れた省エネリフォーム

外付けのカバー工法による窓改修で施工時間の短縮化がすすむ

リフレム リプラス（ＬＩＸＩＬ）

省エネリフォームに用いられる樹脂製内窓は、サッシの内側に一定以上の幅の枠を必要とするため、障子などの建具を納入している業者にとっては、和室などでは既存の建具を撤去しないと樹脂製内窓を施工できない物件がある。

一方で外付けのカバー工法による窓リフォームを用いると内部の建具を撤去しなくても済む。ところが、外付けの窓だと、シーリング処理などに時間がかかって施工コストが増大してしまうために、実際に施工されるのは、樹脂製内窓が9割で、外付けは1割以下というのが省エネリフォーム市場の現状である。こうした中で、従来の2分の1の施工時間で最短60分での施工を可能にした新商品が発売されることになった。

新築のような仕上がり

株式会社ＬＩＸＩＬでは、アルミと樹脂の高性能ハイブリッド窓の「リフレム リプラス」を3月1日より発売する（リフレムとは同社の外付けカバー工法の名称）。

リプラスの施工の手順は写真の通りで、新しいアタッチメントを既存の外側の枠に載せて、ドライバーで調整して取り付ける。この位の大きさの窓だと女性でも簡単に施工できる（写真は同社開発担当のスタッフ）。取付判断がすぐにできる「現調キット」、既存サッシ枠の内々寸法（幅と高さ）を測定するだけで見積金額提示が可能な「シンプル価格設定」、現場加工しなくても既存サッシ枠に載せた土台の歪みをドライバー一本で調整できる「下枠レベル調整付土台（特許出願中）」など独自の技

従来品のリフレムⅡ（左）と新製品のリプラス（右）
室内側立ち上がりが24㎜分縮小してスリム化した

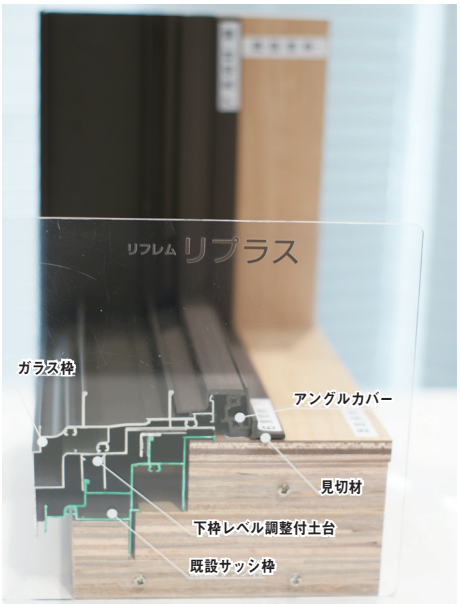
建具 special

施工手順①
採寸後に既存サッシの障子をはずす。気密テープを貼り、ベース材をとりつける。（写真は気密テープ処理）

施工手順②
新設枠のとりつけ。この際に特許申請中の下枠レベル調整付土台（写真）を水平器とドライバーで調整する。

施工手順③
建物の外側からカバー工法の窓をとりつける。アルミと樹脂のハイブリット窓で、室内側から女性でも取り付けられる。

施工手順④
室内側のアングルカバーをとりつける。１窓あたりの施工時間は最短60分ほどで、簡単にできる。



新製品のリプラス

従来品のリフレムⅡ

術によって施工のしやすさを工夫している。

参考価格は、幅１６５０㎜、高さ１１００㎜で９万円。幅１６５０㎜、高さ１８００㎜で12万円。

既存のサッシ枠の見分け方としては、段差のついている枠だと取り付け可能だが、フラットな形状のものだと取り付けられない。地域や建築年数によっても異なるが、全体の８割ほどの既存窓には取り付けることができる。その判別は、取付判断ができる「現調キット」で約10分で判断ができるようになっている。取り付けができない窓などの用途向けには、従来品のカバー工法「リフレムⅡ」の販売も続けていく方針。

新商品「リフレム リプラス」の市場投入によって壁を壊さずに新築のような仕上がりを実現できて、目安としてU値が６・５（既存アルミサッシ）から２・３３（リフレム設置後）と３倍断熱性能に優れた窓にできる。リフレムシリーズの売上げ規模としては昨年の４億円から10倍増を目指して２０２０年には40億円を目指していく。